

1. 評価報告概要表

【評価実施概要】

| | |
|---------------|-----------------------------------|
| 事業所番号 | 2490400013 |
| 法人名 | 有限会社 小春日和 |
| 事業所名 | グループホーム 小春日和 |
| 所在地 (電話番号) | 亀山市南野町12番13号 (電話) 0595-82-1948 |
| 評価機関名 | 三重県社会福祉協議会 |
| 所在地 | 津市桜橋2丁目131 |
| 訪問調査日 | 平成 21年 3月 26日(木) |

【情報提供票より】(H 21年 2月 16 日事業所記入)

(1)組織概要

| | | | |
|-------|-----------------|----------------------|-------|
| 開設年月日 | 平成 18 年 4 月 1 日 | | |
| ユニット数 | 1 ユニット | 利用定員数計 | 9 人 |
| 職員数 | 14 人 | 常勤 4人, 非常勤 10人, 常勤換算 | 6.98人 |

(2)建物概要

| | | | |
|------|--------|-------|-------|
| 建物構造 | 木造 造り | | |
| | 2 階建ての | 1 階 ~ | 2 階部分 |

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

| | | | |
|---------------------|--------------------|----------------|-----------|
| 家賃(平均月額) | 40,000 円 | その他の経費(月額) | 30,000 円~ |
| 敷 金 | 有(円) (無) | | |
| 保証金の有無 (入居一時金含む) | (有) 100,000 円 無 | 有りの場合 償却の有無 | 有 / (無) |
| 食材料費 | 朝食 | 円 | 昼食 円 |
| | 夕食 | 円 | おやつ 円 |
| または1日当たり 1,000 円 | | | |

(4)利用者の概要(2月16日現在)

| | | | | | | |
|-------|-----|------|------|------|-----|------|
| 利用者人数 | 9 名 | 男性 | 3 名 | 女性 | 6 名 | |
| 要介護1 | | 名 | 要介護2 | | 2 名 | |
| 要介護3 | | 7 名 | 要介護4 | | 名 | |
| 要介護5 | | 名 | 要支援2 | | 名 | |
| 年齢 | 平均 | 82 歳 | 最低 | 68 歳 | 最高 | 94 歳 |

(5)協力医療機関

| | |
|---------|------|
| 協力医療機関名 | 伊東医院 |
|---------|------|

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

| |
|--|
| <p>閑静な田舎街の地域に守られるような環境の中、既存の建物をリフォームし、地域密着型グループホームとして平成18年に再始動した。地域の理解を求める方向で積極的に情報を発信し、祭りや畑仕事に参加することで地域密着型施設として前向きに取り組んでいる。</p> |
|--|

【重点項目への取り組み状況】

| | |
|-------|---|
| 重点項目① | <p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>評価の理解と意義を再確認し、職員全体で取り組んだ。</p> |
| | <p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価を全体のものとして取り組んだ。新たな発見で改善すべき問題が確認でき、問題改善に努力が始められている。</p> |
| 重点項目② | <p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>利用者と家族の代表、民生委員、地区連合会、包括支援センター、市担当者の出席で2ヶ月に1回の運営推進会議が開催されている。</p> |
| | <p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>苦情や意見を外部に申告できることを書面でも説明し、面会時も面談で家族の意向・意見の把握に努めている。</p> |
| 重点項目④ | <p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>地域行事や畑仕事を通じて交流を持ち、防災避難訓練など地域からの応援体制を作るべく交渉が開始されようとしている。</p> |

2. 評価報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

| 外部 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|-----------------------|----|---|---|------|-----------------------------------|
| I. 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1. 理念と共有 | | | | | |
| | 1 | ○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている | 地域(家庭)と結びつき、利用者の人格・意向を尊重したサービスの提供を理念とし、アットホームな環境の下で暮らせる配慮をしている。 | | |
| | 2 | ○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる | 理念をホールに掲示し、常に確認と実践の場で話し合い共有できるようにしている。 | | |
| 2. 地域との支えあい | | | | | |
| | 5 | ○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている | 地域自治会・民生委員を介して、地域の行事や祭り、作品展示など地域行事に積極的に参加すると共に、地域への情報発信で交流をもっている。 | | |
| 3. 理念を実践するための制度の理解と活用 | | | | | |
| | 7 | ○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる | 施設の運営や介護実践を見直し、新たな発見や気づきの為に職員全員で評価に取り組み、気づきや問題の改善に前向きに取り組んでいる。 | | |
| | 8 | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 地域自治会、民生委員、包括支援センター、市行政担当者、家族や利用者代表の出席で、2ヶ月に1回の運営推進会議を開催し、意向や意見・問題について改善とサービスの質の向上のために前向きに検討を行っている。 | | |

| 外部 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む) |
|-----------------|----|--|---|------|----------------------------------|
| 6 | 9 | ○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる | 市町村担当者・包括支援センターと情報交換・指導を受けて、問題解決や質の向上に努めている。 | | |
| 4. 理念を実践するための体制 | | | | | |
| 7 | 14 | ○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている | 基本的に小遣金は所持していない、必要なものは立て替え払い後日請求の方法で処理している。日常の状況や健康状況については、面会時(緊急の場合はその都度)に報告、時々小春日和たよりを発行している。 | | |
| 8 | 15 | ○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 不満や苦情は職員や管理者に気軽に申告できる配慮と、第三者に申し出る方法を運営規定で明記すると共に、入所当初から説明している。 | | |
| 9 | 18 | ○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている | 利用者・家族と職員の馴染みの関係を継続することに留意すると共に、退職希望者とは事前に話し合うことで異動による利用者へのダメージを防止している。 | | |
| 5. 人材の育成と支援 | | | | | |
| 10 | 19 | ○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 研修の年間計画はないものの、研修の情報は職員全員に流し、希望も考慮しながら参加させる方法を取っている。研修参加者には事後の報告と施設内での報告を義務付け、実践に生かしている。 | | |
| 11 | 20 | ○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 亀山市内の同業者との連絡会に参加し情報の交換や話し合いを行い、サービスの質向上に役立てている。 | | |

| 外部 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む) |
|------------------------------------|----|--|---|------|----------------------------------|
| Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応 | | | | | |
| 12 | 26 | ○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している | 体験入所の制度はないが、できる限り馴染める状況での入所を可能にするため、事前の面接・施設の見学で、いきなりサービス開始による利用者のダメージに繋がらないよう、配慮をしている。 | | |
| 2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援 | | | | | |
| 13 | 27 | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている | 利用者を人生の先輩として尊厳し、家族の一員として意向を踏まえた、共に暮らす共に喜ぶ支援の関係を大切にしている。 | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 1. 一人ひとりの把握 | | | | | |
| 14 | 33 | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 一人一人の思いや暮らしぶりを尊重し、支援と関わりの中から意向や意見の把握に努めている。 | | |
| 2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し | | | | | |
| 15 | 36 | ○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している | 利用者や家族の意向・意見を中心に、職員全体で意見交換し利用者本位の介護計画作成に努力している。 | | |
| 16 | 37 | ○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している | 見直しは、急変時以外は3か月に1回とし、見直しについては実践された介護記録・各種シート記録を毎月チェックし、モニタリングしている。 | | |

| 外部 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|------------------------------------|----|---|---|------|-----------------------------------|
| 3. 多機能性を活かした柔軟な支援 | | | | | |
| 17 | 39 | ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている | 個別な希望による外出や日用品の買出し、ドライブや花見、医療機関の受診などを支援している。 | | |
| 4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働 | | | | | |
| 18 | 43 | ○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 協力医はもとより以前からのかかりつけ医への受診や情報交換を行うなど、柔軟な支援している。 | | |
| 19 | 47 | ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している | 家族や医療機関と情報を共有し、できる限りの支援をしている。昨年終末期を施設で迎えた経験があり、状況に応じては家族や利用者のために果たせる役割のある事が確認された。 | | |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 1. その人らしい暮らしの支援 | | | | | |
| (1)一人ひとりの尊重 | | | | | |
| 20 | 50 | ○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない | 個人情報の保管は基より、かかわりの中でプライバシーの侵害にならない様に配慮し、個人情報の取り扱いには充分注意をしている。 | | |
| 21 | 52 | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 利用者の意向に沿う介護、一人一人の暮らしを尊重することが、その人の暮らしを支えるものと考え、自主性を重んじた支援に配慮している。 | | |

| 外部 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む) |
|--------------------------------------|----|---|---|------|--|
| (2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援 | | | | | |
| 22 | 54 | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 朝食自炊、昼・夕食配食、マンネリ化防止と季節感や食生活の充実のために、自家栽培の野菜や季節料理を適宜取り入れて楽しんでいる。利用者は、準備や後片付けにそれぞれの能力に応じた参加をしている。 | | |
| 23 | 57 | ○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している | 個別入浴を基本にし、週2回の入浴とシャワー浴の併用で身体の清潔さや快感を味わっている。 | | |
| (3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援 | | | | | |
| 24 | 59 | ○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている | 利用者個別のADL能力や趣味を生かした行動を発揮する機会を設けたり、それに参加することで、役割や楽しみ事を発見する支援を実践している。皆で作った切り紙作品を地域のコミュニティーセンターの作品展に展示しその成果を皆で喜んでいる。 | | |
| 25 | 61 | ○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している | できる限り周辺地域に散歩し、施設の中だけで過ごさずに、地域で生活していることの実感を得る支援をしている。 | | |
| (4) 安心と安全を支える支援 | | | | | |
| 26 | 66 | ○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる | 玄関の鍵は施錠されている。徘徊者の見守りだけで安全が確保できない状況にある。センサー等の設置を考えて改善を検討中である。 | ○ | 介護の知識・技術と利用者との人間関係の構築で、鍵を掛けないケアの実践を期待する。 |
| 27 | 71 | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている | 定期的に火災などの避難訓練が実施されている。災害時に備えて、地域の応援が得られるように、地域の住民と話し合いが始まりつつある。 | ○ | 年間行事的な訓練から、地域の自主防災会を巻き込んだ避難訓練の実施、職員の災害対策意識づけを計画・実行することを期待する。 |

| 外部 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|---------------------------|----|---|---|------|-----------------------------------|
| (5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援 | | | | | |
| 28 | 77 | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 栄養士の指導の下に、栄養摂取や水分確保について配慮されている。栄養摂取・水分摂取については、シートの記録から一人一人の状況が把握されている。 | | |
| 2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり | | | | | |
| (1)居心地のよい環境づくり | | | | | |
| 29 | 81 | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 既存の建物をリフォームしたことで、共用空間の広さや採光的にやや難点はあるが、季節感や馴染みのものを掲示することで補っている。 | | |
| 30 | 83 | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 居室は2階に6室、1階に3室あり、全体としてプライバシーのある居室空間である。馴染みのものが飾られ、個室としては快適に過ごせる工夫がなされている。 | | |